



duomo…イタリア語で町一番の教会という意味です。弊社がお客様や地域の人たちから親しまれ必要とされ町一番の会社になれるようにとの願いを込めてこの名前に決めました。

今年の梅雨は、例年より1ヵ月も早く始まったにもかかわらず、まだまだ、終わりそうになく7月に入っても雨の日が続くようです。オリンピックが始まるころには、この長い梅雨も明けて、暑い夏がやってくるのでしょうか？開催されるのか、土壇場でキャンセルとなるのか、未だに、はっきりとはしませんが、このドーモがお手元に届くころには、はっきりとしているのでしょうかね。何はともあれ、感染拡大しないように祈るのみです。(^^)

既存住宅の断熱改修工事 内装を全く壊さないで行う断熱工事



施工前
天井裏写真
ウレタン吹付前の写真です。
断熱材同士の隙間やユニットバスを据え付けた浴室の壁に断熱材の欠損がみられます。



施工後
天井裏写真

ウレタン吹付工事を施工した後の写真です。
左奥がユニットバスが据え付けられている浴室部分です。上の左の写真で隙間が見られた部分もウレタンによってしっかりと埋められています。



施工前 1階床下写真
厚さ4cmの板状の断熱材が根太間に埋め込まれています。



施工後 1階床下写真
既存の断熱材の上から厚さ10cmのウレタン断熱材を吹き付けています。下に落ちた断熱材はこの後きれいに掃除をしています。!(^^)!

赤磐市にお住まいの方から、12年前に新築した住宅で、内装は気に入っていて何の問題もないのだけれども、冬が寒くて、これを何とかしたいとのご相談を頂きました。

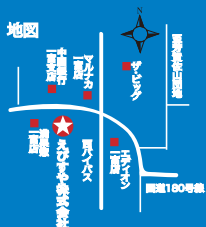
内装を壊すことなく、有効な断熱工事をするために用いた工法は、硬質ウレタンフォームの吹付による断熱工事です。
天井裏と床下に、それぞれ20cmと10cmの硬質ウレタン断熱材を吹き付けます。その時には天井点検口と床下点検口からホースを入れて左の写真のように吹き付けていきます。

この時に気を付けないといけないのは、外壁と間仕切り壁の壁体内の気流止めをしておかないと、いくら床と天井の断熱をしても効果が表れにくいというところです。

こちらの現場でもウレタンの吹付をする前に予め、それらの気流止め工事を行ったうえで、工事を施工いたしました。

施工中に、天井裏に上がってみました。
朝に上がった時には、そうでもなかったのですが、午後上がった時には6月の終わりごろでも、まるでサウナに入ったかのように汗が噴き出てきました。断熱の弱い住宅の場合、この熱が、下の部屋に及ぼす影響は、相当なものがあるので、肌で感じました。
冬の寒さも厳しいのかもしれませんが、夏の暑さもきつと厳しかったのではないかと思います。今回の工事のきっかけは冬の寒さ対策でしたが、夏の暑さ対策にもなったのではないかと思います。!(^^)!

また、今回の工事では、この他に、窓と勝手口の断熱改修工事をしています。
いずれも、グリーンエコポイント補助事業の申請をしています。



ご連絡先  086-284-6170

えびすや建築工房

TEL. 086-284-6170 E-mail. info@ebisuya-net.co.jp
FAX. 086-284-6175

えびすや 株式会社 〒701-1211 岡山市北区一宮113-1

こちらから無断でお伺いすることはございません。